

トライやる・ウィークを終えて

今年のトライやる・ウィークはコロナの影響のもと、例年とは大きく違った活動となりました。トライやる・ウィークの趣旨は、中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援するということです。今年は、感染防止の観点から事業所での活動を行わず、地域社会の一員として地域社会との連携を深めるため、地域福祉センター周辺での活動を行いました。具体的には草刈りや丸太階段直し、ひよどり桜の若返り化、池の上の土のう積み、ナラ枯れ木チップ化、ふれあいロードの計測等をグループに分けて行いました。昨年までの先輩達の活動を見ていて、楽しみにしていた生徒も多かったのではないかと思います。草刈りなどを行うと聞いて、一見地味に見える活動にがっかりとした表情を見せる生徒もいました。しかし、実際活動が始まるとみると47回生は地域の方の指示やアドバイスをしっかりと聞き、作業に一生懸命取り組むことができました。作業をしていく中で、沢ガニを見つけたり、様々な草花の名前を教えてもらったり、ひよどり台が自分たちが思っていた以上に自然にあふれている様子に気づいたようです。

また、自分たちが使っている公園の坂道に丸太の階段をつくって通路を作っていました。元気がなくなった桜の木の根の周りに穴をあけ空気や水を通してやすくし桜の若返りを図ったり、枯れ木や不要な枝を切りそれを、細かく碎きチップにし草木の肥料にしていく活動を行いました。その作業を行う中で、普段から地域の方が地域のために活動してくださっていることを知ることができました。

そして、何よりも強く感じたことはひよどり台という地域の温かさです。生徒たちに作業の指示をしてくださった方々もそうですが、ただ近くを通りすがった方々からも「ご苦労様、ありがとう」などの声をかけてもらったり、枝や木を運ぶのを手伝ってくださる方がいらっしゃりました。また、保育園や小学校の時から子供の成長をいつも見てくださっていて「大きくなったね」と声をかけてくださる方もいらっしゃいました。このような地域で育てられてきたことを誇りに思い、感謝することができるそんな47回生であってほしいと強く思いました。今回、このような素敵な場を提供して下さった「山の学校」と「花と緑の会」の方々を中心としたボランティアの皆様に感謝致します。

今年のトライやるは2日行われます。あと1日は12月にしあわせの村あんしんすこやかセンターと連携して生徒たちが地域で何ができるかを考える機会をもちたいと考えています。



トライやる・ウィークを終えて ◆ 生徒作文 ◆

トライやるデイ

私は1年前、職業体験に2年生が行くことを知って来年私も何の職業体験に行けるのかとても楽しみでした。しかし、コロナの影響で職業体験ができないと知って、正直残念な気持ちでいっぱいでした。

私は地域の活動に行けると聞いて、少し不安でした。しっかり活動できるか、何をするのかとても心配でした。しかし、実際行ってみると地域の方々が笑顔でむかえてくださりとても安心しました。

活動をしていく中で、私は最初草かりだったのですが、通りすがりの地域の方が「ありがとう。」「きれいになっていくね。」「がんばって。」など、たくさんのありがたい言葉をいただきました。さらに、通っていく際に手伝ってくださる地域の方もいました。改めて

地域の方々は私たちを支えてくださっているのだなと感じました。

丸太で階段を作るとき、私はすごくわくわくしていました。丸太で階段をつくるのは初めてだったからです。実際やってみると結構腕力のいる仕事だったので少し、筋肉痛なりました。この体験を通じて、山に丸太の階段をつくる仕事の人たちは、この作業を何時間も行ってたくさんの人人が安心して登れるために苦労しているのだなと思いました。

トライやる・ウィークではなかったけれど、トライやる・ウィークでは感じられていないまた違う気持ちをいだけたと思うのでとても良かったです。また、自分たちの地域を自分たちできれいにするのはとても気持ち良かったです。次に、このような活動があったとき今日みたいにスッキリするような気持ちになれる活動にしたいです。

トライやるを通して感じたこと

今年は、例年とは違った形でのトライやるでした。でも、形は違っても共通することがありました。

それは、協力することです。地域の方や友達がいてくれたからできたことだと思います。

一番最初に草刈りをしました。右手にかまを持って、左手で草をつかみました。その時も地域の方は、私達がけがをしないようにと念入りに注意してくれました。草を刈るのは、思った以上に大変でした。やっていくうちに、草がボウボウになっていた場所がスッキリしました。班6人分で草の山ができるぐらいでした。それも1人では集められなかつたと思います。

草刈りの次は、そうじをしました。そうじは、やる意味があるのかなと思っていたけれど、一生懸命ほうきではいている友達を見て、私もがんばりました。

そうじの次は、枯れ木のチップ化をしました。この時は、地域の方の他にもチップを作るトラックのタウンビーバーと、それをやってくれた方にもお世話になりました。木を入れると、小さくくだいてくれました。タウンビーバーは、世界でも活躍しているすごいトラックです。みんなで協力して作ったチップができ上ったときの達成感は忘れられません。

お昼をはさんでから最後に、計測をしました。ふれあいロードの道が何メートルあるかなどを測りました。山道もやったので大変でした。

トライやるを通して、協力する大切さを改めて感じました。これからも学年やクラスで協力して、さまざまな行事を乗り越えていきたいです。